

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針(案)
1	成果指標			指標をヒエラルキーの形にして、行政評価を行い、財政コスト情報まで掲載したPDCAをどこまで回せるかが重要。	事業評価に際しては、施策展開全体を図る成果指標への貢献度や、費用対効果の検証などを行い、事業改善につなげることで、しっかりとPDCAサイクルによる進行管理を行います。
2				何年か実践すると、従来の評価の枠組みに縛られてしまうことが起きるため、厳密に作り込まず、柔軟な対応が必要。評価だけでなく問題を把握して改善することが大切。	各施策展開と因果関係が明確な成果指標を設定していく。また、事業評価の中で分析を行い、事業改善につなげることでしっかりとPDCAサイクルによる進行管理を行います。
3				慎重にコストをかけ、しっかりと評価しなければならないが、細かくすればするほど柔軟性がなくなり、軌道修正が難しくなる。	各施策展開と因果関係が明確な成果指標を設定します。
4				議会や住民に対応するときに定量的な数字で表すことが必要。しかし、定量化できないものもあり、特にアンケートなど定性的に表すことが大切。	原則、客観的な指標を設定するが、難しい場合は、アンケートによる定性的な指標を設定します。
5				アウトカムは大事だと思う。ただ、アウトプットの設定の方に進む傾向があるという危険性を認識して、指標設定を進めてください。	行政の活動実績を表す指標ではなく成果を測る指標を設定します。
6				市民の割合を調べるアンケートを厳密にやると、母集団に偏りが出ないよう数値の取り方・妥当性を考える必要があるので、相当な作業量がかかる。	アンケートでの測定は、設問や対象者を工夫し、極力、客観性、明確性を保つとともに、集計・分析により、事業・手法の改善等、PDCAサイクルによる進行管理に生かします。
7				評価する際にはエバリュエーションコストがある程度かかるので、予算配分を明確にすることで議論の密度が変わる。	コストをできるだけ抑える工夫をします。
8				表現やその先にある目標がどこにあるのか明言することが重要で、数字を上げられるものを前提に設計する方が難しくなる。	施策展開ごとにその成果を測る指標を設定します。
9				計画全体の目標として、市民の満足度の高く、幸せだと感じていることが大事。	計画の目指す将来都市像として「上質な生活都市」と「東日本の中枢都市」を掲げ、将来都市像の実現に向かうことが、市民の満足度の向上につながると考えています。
10				指標の数字が上がるだけでなく、市民が住みやすくなったということを実際に実感できることが大事。	計画の目指す将来都市像として「上質な生活都市」と「東日本の中枢都市」を掲げ、将来都市像の実現に向かうことが、市民の満足度の向上につながると考えています。
11				「企業に選ばれる成長・発展」というキーワードもあり、東京近郊の住宅都市であれば、「住み心地」と「定住志向」の2つのキーワードだけでよいのか議論が必要。	将来都市像の実現に向かうことが、「住み心地」や「定住志向」といった市民満足度の上昇につながると考えています。

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）
12				東日本の玄関口、中枢都市の記載があり、他都市からどう見られているか、を議論する必要がある。計画の目標設定や骨格整理の段階で他都市からどう見られているかの確認が必要。	将来都市構造において東日本の対流拠点としての位置づけを記載します。
13				数字は軒並み上がっていても幸福感が向上しないということがある。その時の問題認識や課題解決が重要。	「住み心地」や「定住志向」といった市民満足度と成果指標の関係性の分析については今後、検討していきます。
14			全体	現時点の案における重点戦略1では、かつての案の重点戦略1～3のうちの1と2をただひとまとめにしたのみで、各要素の相互関係等の整理ができていないのではないかな。	「重点戦略」素案の中で、各要素の相互関係（戦略と戦術）についての記載をしました。
15				アップーミドルなど、ターゲット対象を明確にするとわかりやすくなる。	重点戦略の各テーマごとにターゲットは想定できる。重点戦略全体としてはSDGsの「誰一人取り残さない」という観点から、ターゲット設定はいたしません。
16				さいたま市は「自然と調和した都市」が最も魅力的と言え、「オンオフ」と言ったデュアルライフを楽しめるストーリーを作る等、市民にわかりやすい内容にする工夫が必要。	今後、ワークショップ等を踏まえて、市民にわかりやすいストーリー等を作成していきます。
17				各テーマごとに内容を見ると理解できるが、全体としてどういう戦略か理解できない。	御意見を踏まえて、「重点戦略」素案の作成をしました。
18				将来都市構造（ハード＋ソフト）と重点戦略の関係性も考えるべき。	将来都市構造は、施策全体や重点戦略を考える上での、都市空間の形成で求められる視点や、今後の課題を示したものです。
19				重点戦略に関係する施策展開の中にも優先順位があるのではないかな。具体的な目玉となる施策展開を、都市戦略の大きな方向性として記載した方がよいのではないかな。	「重点戦略」素案の目指す方向性という項目において、重点戦略（各戦術）の大きな方向性を記載しました。
20				重点戦略は、分野別計画をただ抽出説明しているだけのようには思えます。空間的・分野別の切り口を超えて、もう少し踏み込んだ視点での抽出内容を記載すべきではないかな。	魅力・課題に関連の強いものを分野横断的に抽出しております。
21				重点戦略が2段階構成になるのがわかりづらい。	「重点戦略」素案の中で、重点戦略1と2の関係性の説明を記載しました。
22				それぞれの魅力・課題と施策展開、重点戦略の整合性について、どこで議論するのか。	魅力・課題と重点戦略とのつながりについては、重点戦略の素案の中で改めて意見を伺いたい。重点戦略に位置付く具体的な施策展開や事業については、今後実施計画を策定する際に決定していきます。
23				個人的な意見ですが、重点戦略は魅力を生かす戦略だけで十分ではないかな。重点戦略が2段階構造で分かれているのもわかりづらい。	魅力を生かして、持続可能な都市として成長・発展し続けるためには、課題に迅速に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築くことが重要であると考えています。

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）	
24	重点戦略			現行の総合振興計画の重点戦略がうまく機能していないなら見直しをする必要がある。かなり網羅的なので選択と集中が必要。	今後実施計画を策定する際に、重点戦略に位置付く具体的な事業を決定していきます。その際は、魅力と課題に関連性の強い事業のみを重点戦略に位置づけ、選択と集中を実行します。	
25				重点戦略といいながら、関連する施策展開が全体の2/3となっているが、もっと絞り込む必要はないか。		
26				重点戦略と地域におけるマネジメントの概念をどう整理しているのか。		重点戦略は、魅力を最大限に活用していくことで成長・発展し、そのためには、直面する課題に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築いていくという考えで、魅力と課題に関連の強い事業を位置づけます。
27				重点ポイントの記載が、事業レベルの書きぶりもあり、統一されていない。		御意見を踏まえて修正しました。
28		戦略1	全体	優位性は十分生かされていない部分なので、生かそうということではないか。	御意見のとおりです。	
29				優位性は市としての誇れる部分でもありながら、今後活かすということではないか。		
30				バックキャストिंगして考えていくのか、「強み」と書いてある先に何かがあるかよくわからない。		これまでのまちづくりで育まれた「強み」を最大限に活用していくことで、さらなる成長・発展につなげていきます。
31			戦術1	「スマートシティ」という言葉は、環境の分野だけではなくICTを含めて幅広く捉える必要があるのではないか。	御意見を踏まえて「脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開」に修正しました。	
32			戦術2	「健康」は、現在若い人が多いので魅力だが、今後高齢化が進行すると課題になる。	市民の健康意識の高さを魅力としています。	
33				「健康」は、今後高齢化すると強みが弱みになってしまう。根拠データを他都市と比較してみる必要がある。		
34	「健康」は、市内は鉄道がコンパクトなので、「市民が歩けること」等を生かすことができる。			御意見を踏まえて、「歩く」ことを中心に楽しく続ける健康づくりを推進していきます。		
35	「健康」は、生活習慣だけでなく、住環境、ライフスタイル、ライフステージを意識して、広範囲に捉えるべき			選択と集中の観点から、伸ばしたい強みに関連の強い事業のみを重点戦略に位置付けます。		
36	単に健康づくりでなく、健康に加えて歩いて楽しめるというような部局横断的な要素があるとよい。	御意見を踏まえて「歩くことを中心に楽しく続ける健康づくり」を追加しました。				
37		目指す方向性のに記載されている取り組みの中で、「健幸」に関する内容が読み取れない。	指摘内容を踏まえて修正しました。			
38		戦術4	高齢化が進行すれば、ターゲットが子どもから高齢者になってきて、老人たちがチャレンジできるようになるための生涯学習は考えなくてよいか。	選択と集中の観点から、伸ばしたい強みに関連の強い事業のみを重点戦略に位置付けます。		

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）
39				大学進学率が高いのに生かされていない。グローバル展開する企業が地元 にありそこで働ける環境が理想であるが、受け止める施策がない。	本市の交通の要衝という魅力を生かして、企業の立地を促進します。
40			戦術5	観光資源のアピールをするべき。	観光資源に関連する施策で対応します。
41				「災害に強い」と言い切ってしまうてよいか。	内陸都市であることや、比較的安定した平坦な地域であること、地盤が 強く自然災害が起こりづらいこと、また、国の広域防災拠点に位置付け られているさいたま新都心を有することを根拠としております。
42				重点戦略2において、国際社会共通の問題である、SDGsに対応したさい たま市としての取組によって「上質さ」を目指すのか、それともさいたま 市特有の問題に対する市民の不安を解決することを最優先するのか。それ ぞれでやり方が異なる。	重点戦略2では、時代潮流を踏まえた本市が直面する課題に迅速に対応し ていきます。また、SDGsについては、計画全体の取組で対応していきま す。
43				「人口減少・少子高齢化の進行」は課題ではなく、問題であり事象。課 題解決で上質な生活が実現するはずであるが、課題は何か、どんなまちを 目指すのか、議論は必要。	第1部計画の全体像の第5章第2節さいたま市の課題において、事象で はなく課題が何かを記載しました。
44			全体	重点戦略2の課題は、本当にそれが課題になるかわからない部分が散見 される。急速な高齢化は事象でしかなく、これによってさいたま市でどの ような課題が出てくるかが読み取れない。	
45				戦略が総花的で、戦略のイメージがわからない。ニューヨークを例にあげ ると、課題2・5を優先して取組んだ後に、課題3・4に取組んでいる。さ いたま市もどの課題から優先的に取組んでいくのか、ストーリー性をもっ て考えるべき	突出した課題がなく、優先順位をつけるのは難しいですが、各課題に対 応する施策を重点戦略として優先的に取組みます。
46		戦略2		課題4は地球環境問題の深刻化への対応と記載されており、いきなりグ ローバルレベルの話になっている。	各課題のレベルに差はあるが、いずれもさいたま市が直面する課題として 5つ掲げています。
47			戦術1	「教育」は、「学校教育」のみであれば明示する必要がある。人生100 年時代という中で、幅広い「教育」であれば「生涯教育」と明記する必要 がある。	御意見を踏まえて、課題に対応する戦術1の目指す方向性において、生涯 教育に関する記述を追加しました。
48			目指す方向性の内容が10年先を見据えたものとなっていない。		
49			人生100年時代を見据えると、生涯教育の概念が重要と感じる。		

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）	
50			戦術 2	「経済のグローバル化と技術革新の進展」は、住民目線で住民の働き先を念頭においた内容で、企業目線が弱い。	経済のグローバル化に伴い、市内経済の縮小が懸念されるため、中小企業の経営基盤強化への支援等を重点的に取り組みます。	
51		さいたま市の子育て世代は収入があるといなくなる。「働いて住む」「通勤しなくても働ける」の視点は入れなくてよいか		地域経済を支える人材展開の強化の施策で対応します。		
52			戦術 4	3 R の推進は従来の取組であり、重点戦略に位置付ける施策としては小さく感じる。	3 R の推進の中には、近年新たな課題となっている食品ロスに関する取組も含まれることや、温出効果ガスの削減においても関連の強い施策であると考えているため、重点ポイントに位置付けております。	
53	その他			重点戦略が目指す将来都市像について、具体的に記載して欲しい。	第1部 計画の全体像に記載される「将来都市像（案）」の抜粋を参考資料として提示しました。	
54				「上質な生活都市」と「東日本の中枢都市」に関わる物語を書き、その物語に施策が繋がっていく表現にした方がよい。		
55				前回の意見にもあった物語と、2つの将来都市像と施策の繋がりが見える形を見せてほしい。その表現は文章だとわかりづらいので絵にする必要がある。		
56				「上質な生活都市」と「東日本の中枢」を説明する過程がありません。ロジカルフレームになっていないので、計画からなぜこの2つの将来都市像になるか説明できません。		将来都市像は、これまでの都市づくりを引き継ぎ、これまでの都市づくりで育まれた魅力を生かしながら、本市の取り巻く課題に的確に対応していくため、現在の将来都市像を一步進めた目標です。
57				SDGs の記載についてどのように考えているか。		第1部計画の全体像の中でSDGsの概念を記載し、計画全体でSDGsを推進します
58				グローバル企業に選ばれることを意識すれば、SDGsの視点をいれた方がよい。		
59				「東日本の中枢都市」など、東日本にこだわる理由が何か整理する必要がある。		現行の将来都市像を1歩進めるという考えであるため、これまでの取組で目指してきた東日本の対流拠点都市をさらに進め、東日本の中枢としてしての地位を確立させていく考えであります。
60				東日本の中枢都市のイメージに、クリエイティブ・ワーカブルといった概念を入れてみてはどうか。		御意見を踏まえて修正します。
61				シビックプライドの醸成は、上質な生活都市の延長線にあるように感じる。		御意見を踏まえて修正します。
62				上質な生活都市の将来イメージ、どういった生活なのかが分からない。		今後、ワークショップの結果を踏まえて、市民にわかりやすいストーリー等を作成します。

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）
63		全般		将来都市像と将来都市構造の関係性が見えない。	将来都市構造の解説文と合わせ、将来都市像との関係性を示します。
64				イメージ図として整理すべき。	計画書としてまとめる際に、イメージも整理します（検討中）
65				国土交通省が示している「ウォークアブルシティ」の要素を取り入れてみてはどうか。	ウォークアブルシティの要素については、市全体の方針として将来都市構造へ記載するのではなく、分野別計画の「都市インフラ」の分野に盛り込むことで調整します。【調整事項案件】
66				他都市と競うという視点があった方がよい。	他都市との比較（競う）という視点については、重点戦略の中で示しております。
67	現状と課題	本市の課題		本市の課題が全国的であり、違和感がある（そもそも本市はコンパクトシティとなっている）また、人口の増減を地域ごとに示すべき。	将来都市構造は市全体の方向性などを示すものと理解しています。市として、将来的に人口減少や少子高齢化が課題となると認識しています。
68	目指す将来都市構造	質の高い～		目指す将来都市構造の解説を、分かりやすく記載すべき。また、主語を記載すべき。	将来都市構造の解説文と合わせ、将来都市像との関係性を示します。
69		多彩な交流を～		「多様」でなく「多彩」という表現を使用した理由を示してほしい	現行計画との継続性から表現を「多彩」としています。
70		①～④		並列に見えるが、実際は④が主である。整理すべき。	将来都市構造の解説文と合わせ、将来都市像との関係性を示します。
71		①		説明のようで説明していない。	将来都市構造の解説文と合わせ、将来都市像との関係性を示します。
72		①都心		都心では「都市型住宅」を誘導するという考え方でよいか。	ここでいう「都市型住宅」とは、都心などにおいて高度利用された形態でにぎわいや景観を形成し、様々な都市機能を身近に利用できるという高い利便性を生かした住宅。商業機能等とバランスをとりながら誘導する考えです。
73				大宮・新都心と浦和の特徴をそれぞれ記載した方がよい。	計画書レベルの書きぶりで、大宮・新都心、浦和、それぞれの特徴を記載し、東日本の対流拠点という言葉は、「都心」の中ではなく「大宮」の特徴を記載していく中で使用していくことに修正します。
74		2都心4副都心の目指す方向性		目指す方向性のレベル感がバラバラである。ローカル目線か、広域的目線とするか整理すべき。	地区の特色によって目線が変わる可能性があり、特色に合わせた表現とします。
75				この地区が目指すことを端的に示すべき（これから住む・進出する人を選んでもらえるような目玉的なことを表現しては）また、地域資源だけでなく特性・イメージ（文教都市など）を記載してはどうか。	指摘内容を踏まえ、修正を検討します。（検討中）
76				各地区の方向性を示す上で、各地区の課題などをしっかり整理できているのか。	再度整理した上で記載します。（内容は現在調整中）

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）	
77	将来都市構造	拠点		計画ができるころには「にぎわい交流館」は整備済となるため表現は変更したほうがよい。	整備予定時期を追記することで対応します。	
78			地域活動拠点	区役所周辺が地域活動拠点は違和感がある。市民が区役所に行くことはほとんどないため、図書館、コミセンに変えるべき。	区役所周辺については、区役所における地域活動支援のほか、区役所との併設でコミュニティセンターや図書館が設置されるなど、地域における市民活動に必要な文化・交流機能を担う施設が集積し、また一定の交通環境が整っていることから、引き続き、地域活動拠点と位置付けます。 (文案にその趣旨を盛り込む)	
79			産業集積拠点		産業集積拠点の集積機能の中に、研究開発系の企業なども入れるべきではないか。	産業集積拠点は、都心・副都心を除いた地域で業務機能を集積する地域と考えている。(産業集積拠点の説明に、都心・副都心を除く旨追記) また、研究開発系の企業などは、原則、都心・副都心に集積する業務機能と整理します。
80					自然部分を侵食しないように表現するべき。	将来都市構造の水と緑ネットワークの骨格などにおいて、緑の維持・保全を原則としているので、改めての記載はいたしません。
81					従来型の2次産業だけでよいのか。横浜、神戸のようにクリエイティブ産業の集積は考えなくてよいのか。	クリエイティブ産業等については、都心や副都心の中に多く集積されることも想定され、都心・副都心以外でまとまった用地が必要となる製造業や流通業を例示したものです。(「主とする」を「など」に置き換えるなど、表現を工夫することを検討)
82	エリアマネジメント	全般		エリアマネジメントはどの位置に書き込むか、整理が必要(将来都市構造とは異質では)。	拠点のまちづくりを進める上での概念であることから、引き続き将来都市構造と合わせた項目建てとしたいと考えております。	
83				「一定の地域」や「必要な環境が成熟している」といった表現が分かりづらい。	分かりやすく文言等を整理します。	
84				全体的にエリアマネジメントの主語がないように思う。	指摘内容を踏まえ、修正を検討します。	
85				多様な主体が「参画」するではなく、「協働」と記載した方がよい。	意見を踏まえて修正(協働・連携との表現とする)。	
86				公共施設の維持管理といった都市施設マネジメントについては記載しなくてよいのか。	意見を踏まえて修正(都市施設マネジメントをエリアマネジメントにより進めることによるメリットを記載)。	
87				成熟した地域から取り組みを始めると記載した方がよい。	意見を踏まえて修正(必要な環境が成熟している地域について進めていくこととして記載)。	
88				「実験を許すまち」などの書きぶりも必要。	意見を踏まえて修正(社会実験が円滑に実施できるような環境整備が必要と記載)。	

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）
89			地域が主体となった	「地域が主体となった」 エリアマネジメントの意味が分からない。	「地域が主体となった」を削除します。（委員に趣旨確認）
90			た～	エリアマネジメントでの協働相手は行政に限るのか。	行政だけでなく、専門家や他組織等も含める表現とします。
91		イメージ図		色が多すぎる 2, 3色にして、濃淡を使って表現した方がよい。	意見を踏まえて修正。
92				大宮・新都心周辺地区⇒南北軸と東西軸の交点とかぶらなくてもよいか 各副都心地区⇒円の大きさの違いに意味はあるか	意見を踏まえて修正。
93				対流拠点という言葉は具体的なイメージができないので、複数のレイヤーを重ね合わせて表現できないか。また上信越・北陸、東北・北海道より	意見を踏まえて修正。
94	市民協働・公民連携	第1節 多様な主体とともにつくるまちづくり		タイトルは、「公民学」とするのが適当ではないか。	「公民学」の表現を使用している自治体もあることは認識していますが、各事業において特に大学との連携を強調する必要がある場合に使われており、「公民連携」という表現には、大学との連携も含まれていると考えられることから、広く一般にも浸透している「公民連携」を用いることとします。
95				「行政だけで解決できない問題」という表現は、裏返すと「これまでは行政だけで解決できた」と読めることから、見直すべき。	御意見を踏まえて、「現状と課題」欄の1つ目を「ライフスタイルの多様化や少子高齢化の進展に伴い、市や市民を取り巻く社会環境は変化し、多様化、複雑化するニーズに対して、これまでの取組では適切に対応することが困難になってきています。」に修正します。
96				市民との協働というのは非常に難しく、公民連携の在り方は分かりづらい。これまでのPFIや指定管理の足りない部分を明確にしてほしい。	PFIや指定管理者制度には法令に定められた手続きがあり、個別事業を実現するための手法であって、課題等はそれぞれの事業により異なることから、実施計画の各事業の中で説明してまいります。
97				協働と連携、市民協働と公民連携といったような並列の言葉がよく出る。用語の整理をすべきだ。	御意見を踏まえて、次期総合振興計画の「用語解説」において整理します。
98		第1節 市民に信頼される開かれた市政運営	広報・広聴について、広聴がどう機能し、どのような効果を上げたのかというプロセスの部分の評価が重要だ。成果指標も含めて見直すべきではないか。	御意見を受けて、「広聴の参加者」という指標も検討しましたが、市政への不満が減れば、広聴を利用する人も減ると見込まれるため、広聴全体を捉える指標としては不適當と考えています。また、提出された「わたしの提案」のうち90%以上は個別の要望、苦情、問合せとなっているのが現状であり、建設的な提案につきましても、制度的な問題、財政上の問題、技術的な問題等様々な課題があるため、「提案のうち〇〇%の反映」等の数値の設定は困難です。本市の広聴の取組としては、提案に関する処理の進捗状況や市の回答を登録し、庁内で共有を図るとともに、ホームページ上で公開して見える化を図っています。また、提案受付から回答までの処理日数は平均7.2日と、迅速に対応しています。現案で「手段が整っていることの認知」としているのは、この一連の取組に対するものも含まれると考えており、「市民に信頼される開かれた市政の推進」に大きく資すると考えています。	

No.	項目1	項目2	項目3	意見	対応方針（案）
99		第2節 健全財政の維持		健全財政は、特別会計の繰入が今後どうなっていくのかも盛り込むべきではないか。法定外目的税の導入についても、議論の対象とすべきではないか。	御意見のとおり、健全財政の維持は一般会計に限らず特別会計も含めて判断すべきものでありますが、現状の表現で包含できていると考えます。なお、成果指標については、特別会計の状況も含めて健全性を判断できる指標とする予定で検討しています。法定外目的税については、実施に関して慎重に検討する必要があるため、議論の対象とすることは困難な状況です。
100	高品質経営市役所	第3節 市政を支える職員の育成と働く環境の整備		職員の働き方については、正規職員のことだけが書いてあるように思う。会計年度職員や非常勤職員も多くなってきたので、特出ししていてもよいのではないか。	御意見のとおり、働き方の多様性や職員の個々の事情やニーズへの対応が進む中、公務の担い手としての会計年度任用職員や臨時職員の重要性は高まってきていると認識しています。それぞれの任用制度の趣旨や仕組み上、個々の勤務制度や施策等を計画に位置付けていくことは馴染まないと考えますが、職場におけるコミュニケーションの向上や改善に取り組む風土の醸成といった本計画の基本的な方向性の中には、正規職員だけでなく職員全体を広く包含しているものと考えています。
101				職員の育成について、「組織に貢献できる」という言葉だと部や課に貢献することと受け取れるが、「業務・事業に貢献する」というように表現を改めるべきではないか。	御意見の「組織に貢献できる」という言葉については、本節の「市政を支える職員」という趣旨から、高品質経営市役所を目指すに当たり、職員個々の育成とともに、職員の力を合わせて相乗効果を発揮できるよう、事業を担っている組織としての力・チーム力の向上が重要であるとの意図でした。御指摘を踏まえて、文言の修正等を行う方向で検討してまいります。
102			第4節 高品質な施策を生み出すための仕組み		計画推進、進行管理についての記述が抜け落ちているのではないか。
103		第5節 真の分権型社会を担う自主的・自立的な都市の実現		地方分権に関する「国に働きかける」という表現は見直したほうがよい。また、市民生活に直結したものではないので、計画に盛り込む必要もないのではないか。	御意見の点について、住民に身近な行政の実現という地方分権の趣旨を鑑み、本節の位置付けは残すこととしたいと考えています。また、「国に働きかける」という表現については、御意見を踏まえて、文言の修正等を行う方向で検討しています。